

令和5年度 第1回堺市堺区政策会議 議事概要

開催日時：令和5年8月25日（月）午前10時00分から午前11時45分

開催場所：堺市役所 高層館20階 第1特別会議室

出席者：紅谷座長、東根職務代理者、岡田構成員、亀田構成員、高岡構成員、長田構成員、
中村構成員、成山構成員、藤本構成員、山口構成員

欠席者：田邊構成員

【議事要旨】

（1）座長及び職務代理者の指名について

座長は、区長から兵庫県立大学院の紅谷委員を指名。

また、職務代理者は、座長が大阪公立大学の東根委員を指名。

（2）第2期堺市堺区政策会議の概要について

資料1「第2期 堺市堺区政策会議の概要」をもとに、事務局から説明を行い、本会議の趣旨や役割、スケジュールなどについて共有した。

（3）「堺区チャレンジプラン2021-2025」の取組状況、施策の成果等について

資料2「堺区チャレンジプラン2021-2025 概要版」及び資料3「堺区チャレンジプラン2021-2025の取組状況一覧」をもとに、事務局から説明を行い、チャレンジプラン策定にあたっての基本的な考え方や体系図などについて確認を行った。

次に、資料4「堺区チャレンジプラン2021-2025の取組状況、施策成果等について」をもとに、基本方針1～4までの取組状況や施策の成果などについて、事務局から説明を行い、それぞれご意見をいただいた。

○主な意見

■基本方針1「郷土愛」の取組状況、施策の成果等に関してのご意見

- ・合併で誕生した和歌山県紀の川市では、合併前の各町のことを知ってもらうため、「人」に焦点を当てた歴史フリーマガジン「紀の川人」を発行し、小中学校で配架している。地元で活躍した先人たちがどのように活躍したかを知ることで、シビックプライドの醸成につながる。
- ・子どもを対象とした歴史や文化の体験会や自転車教室を実施されているが、参加された人の声を反映することが重要。民間企業との連携を進めることで、より充実した取組になる。
- ・SNSを広めていく難しさは民間企業でも感じている。フォロワー数が増えたからといって、情報が行き届いているかは分からない。ユーザー化されることが重要。

- ・行政の事業や取組の情報を「広報紙」で得ることが多く、その後興味ある内容についてホームページをチェックしている。「広報紙」は多くの人が見ることができるものなので、その役割は大きい。
- ・Instagramの活用は難しいと感じている。滋賀を自慢したくなるローカルメディア「しがトコ」がInstagramできれいな景色などを載せていて評判がいい。そのために関心を引く写真の勉強をしたり、外国人に分かるようにハッシュタグを外国語（英語、韓国語、中国語など）でつけたり工夫がみられるので、そのあたりが参考になると思う。
- ・何度も定期的に日本へ訪れる外国人は、有名観光地ではない歴史、文化に触れたい人も多い。例えば高野山に行く前に、天見温泉の旅館に泊まるなどプラスαの体験を楽しんでいる。堺でも地域資源を活用したトリアル的な取組をしてはどうか。

■基本方針2「地域活力」の取組状況、施策の成果等に関してのご意見

- ・Z世代の若者が中心となって、旧堺港などで「マルシェイベント」をこれまで3回実施してきた。「堺から良いものが生まれ続けてほしい」、「良いものが愛されるものへ変わる」などをテーマに活動を続けている。今年11月にも、「マルシェイベント」を予定しているが、継続して実施できているのは、人との「つながり」のおかげであると思う。しかし、その「つながり」に再現性はないので、何かやりたいと思う人が、どこに相談していいのかなど分からないことがあるので、誰でも参入できるような仕組みがほしい。
- ・若者は基本的に市のホームページやSNSは見ないが、何かやりたいと思って情報を得ようとする時はSNSを活用することが多い。そのような若者に対してアプローチする場合はSNSが効果的であるので、SNS投稿の方針として、ターゲットを若者に設定するなどすると思う。
- ・自治会では、新型コロナウイルス感染症が広がり、集まることができないので、どうしたら「つながる」ことができるかと考え、LINE公式アカウントを開設することにした。紙媒体の回覧板では、ハンコを押すだけで、内容を見ていない人が多いが、LINEはデータとして何度も見ることができ、情報共有や発信に効果的だと感じている。今では、登録者数が500人ほどとなり、電話連絡する機会が減るなど、手間が省けているのでとても有効的だと感じている。SNSは、災害時の避難所情報などのタイムリーな情報を流すことができるなどメリットも多い。
- ・他にも防災訓練ができないので、YouTubeで配信することとしたが、中学校のパソコン部の生徒が手伝ってくれるなど、若い世代にも参画してもらっている。
- ・若い世代の地域の参画の取組として、「フォトコンテスト」を開催したり、スポーツ・文化事業を活用して、セレッソ大阪のコーチに来てもらいサッカー教室を開いている。また、40代の女性を中心となって活動してくれていることもあり、多くの子育て世代を対象とした取組ができています。子育て世代は横の「つながり」が強く、たくさんの方が集まる。ほかにも近隣の関西大学の教授に協力いただき、「コッカラ体操」や体力測定事業も実施するなど、自治会ではたくさんの事業を実施し、活性化を行っている。
- ・商店街においても地域の活性化への取組を進めている。盆踊りを復活させたり、「ガシバル」を実施するなど、

商店街の活性化に努めている。「ガシバル」は多くの方に参加いただいております。店舗側にも好評であるため、開催を増やしてほしいとの声もあるが、運営側が高齢化していて対応が難しい面もある。若い世代の方々が運営に関わってくれば、さらに活性化につながると考えている。

- ・堺区に住んで年数は浅いが、高齢者が多い地域であると感じている。近所の人が在宅時に回覧板を持ってきてくれる機会に話をする事で地域でのつながりができると思った。お互いのことを知ることが大切だとも思う。

■基本方針3「おもてなし」の取組状況、施策の成果等に関してのご意見

- ・窓口対応（満足度）の KPI（重要業績評価指標）では、窓口アンケート調査から現状値 85%であれば十分かと思うが、前年から下がっていることの分析が必要だと思う。
- ・以前、市役所でペビーカーを借りることができるかネットで調べても情報がなかったが、実際市役所に行くとペビーカーの貸出をしていたことがあった。実施している事業があるなら、しっかりと情報を発信すべきだと感じた。
- ・窓口向上の接遇研修等については、継続的に実施していくことが大切だと思う。個人ではなく組織として共有していくことが大切である。また、週単位、月単位で窓口対応の反省会を継続的に実施し、ブラッシュアップするなど、接遇意識を保つことができる。

■基本方針4「安全・安心」の取組状況、施策の成果等に関してのご意見

- ・以前、「防災士」の資格を取得したが、補助制度があるのを知らなかったため、必要な人に情報が届くよう SNS の発信が必要であると思う。防災サポーターの育成にも SNS での情報発信は役立てられると思う。
- ・地域の夏まつりで自主防災会として参加し、防災ガイドブックとアルファ化米を配付したが、子育て世帯には受け取ってもらえたが、中高生にはあまり受け取ってもらえなかった。学生さんに防災に関心をもってもらうには、まだまだハードルが高いと感じた。学生への発信にも SNS を活用していくべきだと感じた。
- ・安全・安心の観点でいくと、防災・防犯だけでなく、「熱中症」に対する暑さ対策も施設開放など行政の対応が必要になってくると感じている。

■その他のご意見

- ・一人暮らしの高齢者の見守りには隣近所の地域の目が一番大切だと思う。人と人のつながりが、すべての施策につながっていくように感じた。人とのつながりは、人のことを少しでも知ろうとすることが大切である。それがいち早く行動に移すことができるヒントとなる。
- ・子ども向けの体験会に参加できる子どもとそうでない子どもがいる。家庭環境にかかわらず子どもに情報を届ける手段を考えないといけないと思っていた。今日の会議で、自治会が発信する情報で届けることができるのではないかと感じた。親が忙しくても自治会で子育て世代に情報を届ける方法があるかもしれないと感じた。